

平成 29 年度 第 7 回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時： 平成 30 年 3 月 22 日（木） 10：00～12：00
- II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室
- II. 出席者： 片岡座長、神原委員、三浦委員、原島委員、山元委員、小原委員(Skype)、中山委員
井端事務局長、森下主幹

III. 資料

- 資料① 医療系分野フォーラム型実験授業の詳細設計案（30 年 3 月 20 日版）
- 資料② 審査申請書
- 資料③ 授業設計（案）修正案 神原委員
- 資料④ 食事と健康に関する資料（原島委員）
- 資料⑤ Google for Education G o o g l e
- 資料⑥ ASUS 資料

IV. 議事概要

1. 医療系分野フォーラム型実験授業の詳細設計について

実験授業詳細設計案（30 年 3 月 20 日版）について片岡座長から、前回の検討を踏まえた「実験授業詳細設計案（30 年 3 月 20 日版）」の説明が行われ、検討した結果以下の部分を修正した。

1. 「目的と概要」では、「将来が予測できない時代に社会の課題を解決するためには、答えのない具体的な問題を」の部分を「将来が予測できない時代に社会の課題を解決していくには、答が定まらないに修正した。」
2. 「授業の概要」では以下の内容を見直し修正した。
 - ① 今回の授業は第 1 段階の実験授業であることを記入する。
 - ② 今回の実験の授業は 1 回 90～120 分で行うことを想定していることを記入する。
 - ③ 利用する ICT はグレクサにし、特別な環境を使わないで行う前提なので機器購入等を伴うクロームブックは使用しないことにした。但し、特別な環境の導入が不要な Google（G Suite for education）を使うのは問題ない。
 - ④ ネット授業 4 全体発表会 では、他のグループの考え方を知ること、ファシリテータのコメントを受けることを追加することにした。
4. 学生が身に付ける能力（コンピテンシー）

「1）与えられた情報を鵜呑みにせず、複数の視点から注意深く、論理的に分析できる。」について、ルーブリック評価で考えているが「論理的に分析できる。」は難しいのではないかと意見があり再度見直すことにした。
5. 評価
評価はルーブリック評価で行うことにし、以下内容が話し合われた。
 - ・ 評価について、北海道医療大学の二瓶先生に今回から協力いただくことにした。
 - ・ ディープラーニング評価(京都大学松岡先生)などを参考に詳細を決める。
 - ・ ポートフォリオ評価は、「ポートフォリオによる振り返り」に修正する。
 - ・ 図 4 の本質を見抜く（論理的・合理的思考）は難しすぎないか。との意見があり再度検討することとした。
6. 事前準備
 - 1) 倫理委員会申請 4 月以降に行う
 - 2) 学生募集 4 月以降早めに行う
 - 3) ICT システムの構築 6 月から使用できるよう準備を進める

- ④ 以上を考慮した結果、第1回の実験授業は、超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオを視聴させ、課題を考えさせる授業に設計（案）に修正したい。

(2) 以上の説明を踏まえて以下の詳細設計案（30年2月19日版）を検討した。

第6回 医療系分野フォーラム実験小委員会 授業設計案
ICT 活用による分野横断型授業

1. 目的と概要

将来が予測できない時代に社会の課題を解決するためには、答えのない具体的な問題を多面的に捉えて解決を目指すグループ学修が、生涯学修につながるアクティブラーニングとして極めて重要である。ここでは、健康長寿社会に活躍できる人材の育成を目指して、多分野の人たちとともに主体的な学びの能力を身につけさせる。そのためにこの授業では、保健、医療、福祉、介護、栄養の分野横断した学生グループが ICT システムを活用して社会で起きている問題に取り組み、20年、30年先に自分たちが何をすべきか考える。

2. 方法

ICT を活用した分野横断型授業は2段階で実施する。

2段階で実施するICTを活用した分野横断型教育

ーネット会議の活用ー

第1段階 【IPL】	【対象学年：2年生】 分野横断型学修体験ーICTを活用したPBLで健康に関する多分野の意見をどのように集約して、グループとしてのプロダクトを作成するか？
第2段階 【IPE】	【対象学年：3,4年生】 臨床分野横断型学修 医療人として地域における住民の健康を考える。

3. 授業の概要

授業は4回として、授業間隔を最低4日空ける。SDL（自己主導型学修）は授業前後に実施する。

授業0 オリエンテーション

- ICT を活用した本授業の目的と進め方について
- ICT や「学生用ガイド」の活用法（プロブレマップの作成法など）
- 授業1～4のスケジュール調整
- アクティブラーニングとクリティカルシンキングについて

授業1 動機づけ

- 超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオの視聴
(人生100歳時代という、カナダの心臓病学会が出しているビデオ)

SDL1（自己主導型学修）

- NHKスペシャル「あなたもなれる“健康長寿” 徹底解明100歳の世界」を視聴して
自分が健康長寿を送るためにどのようにするかを考える
- 課題1：健康長寿を阻害する問題の相互関係・因果関係を図示したプロブレマップの作成
- 課題2：自分が健康長寿を送るためにどのようにするかを説明する資料を作成

授業2 課題1、課題2についてのSDLの成果をグループ内で共有して、

健康長寿を阻害する問題の相互関係・因果関係を図示したグループとしてのプロブレマップを作成（グループプロダクト1）

SDL2（自己主導型学修）

- 健康長寿社会を実現するために自職種はどのようにすべきかを考える
- 課題3：健康長寿社会を実現するために、20年後の自職種のあるべき姿を説明する資料を作成

授業3 課題3をグループ内で共有して、医療、福祉・介護、栄養職種としてどのように連携して健康長寿社会を実現

するか説明する資料を作成（グループプロダクト2）

SDL3（自己主導型学修）

健康長寿社会を実現するために医療、福祉・介護、栄養職種がどのように連携すべきかを考える

課題4：健康長寿社会を実現するために、20年後の医療、福祉・介護、栄養職種連携のあるべき姿を説明する資料を作成（ICTを活用してグループで作成）

授業4 他のグループと教員に対して説明会を行う。

説明会后、指摘された点やディスカッションを踏まえたグループ最終プロダクトを作成する

SDL4（自己主導型学修）

課題5：授業1～4をふり返り、e-ポートフォリオを作成する。以下のテーマについて最終提出物を作成する。

テーマ：20年後の自職種のあるべき姿

参考：ビデオ資料について

1. NHK スペシャル「あなたもなれる“健康長寿” 徹底説明 100歳の世界」

<https://www.youtube.com/watch?v=fZsnyyhIVVs>

コンテンツ：

1. 老化の原因「慢性炎症」
2. 老化を防ぐ「食事」
3. 微小循環を改善する「運動」
4. 「心」「精神的ストレス」
5. 「社会とのつながり」「生きがい」
6. 老年的超越

(3) 主な意見

- ① 片岡座長の提案通り、夏休み期間に4回位で実施するため、第1回の実験授業は、超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオを視聴させ、課題を考えさせる授業に設計（案）に修正することにした。
- ② この授業でゴールを我々が考え、決めつけるのではなく、たくさんある因子を学生に考えさせることがねらい。※ 個人の自己改革を促す。自分で自分の健康を考える。
- ③ AI、医療経済への発展などについては、授業1（動機付け）で良い動画等があれば紹介し、SDL2、SDL3で発展的に考えさせることができるのではないかと。気づきのある学生が考えられるようにする。

(4) 検討修正内容

実験授業詳細設計案（30年2月19日版）について検討し、以下の部分を修正した。」

目的と概要

20年、30年先に自分たちが何をすべきか考える。を「20年先の自職種の未来像を考える。」に修正した。

3. 授業の概要

以下のように修正した。

- ・ 実験授業は、大学の倫理委員会を通した上で実施する。
- ・ 平成30年8月～9月の間に4回の授業と自己主導型学修を実施し、授業間隔は最低4日程度は空ける。
- ・ 自己主導型学習は授業前に実施する。

4. 授業の内容

4-1 授業0 オリエンテーションは（1）ネットオリエンテーションに修正した。

4-2 授業1動機付けは、（2）ネット授業1にし以下を修正した。

- ① 超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオの視聴を行う。

(人生 100 歳時代という、カナダの心臓病学会が出しているビデオ)

② 医療経済、AI 等の今後の動向や課題に関連する映像を紹介
(閲覧履歴、活用度のデータをとる)

③ 参考資料

① 「地域包括ケアと多職種連携-学習用ワークブック- (日本医師会)

② 「平成 29 年度版 介護と保健ガイドブック (日本保健情報コンソシウム)

③ 「政府の役割と社会保障」ワークシート活用マニュアル (厚生労働省)

④ 「2025 年に向けた看護の挑戦、看護の将来ビジョン」
<https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/pdf/vision-4C.pdf>

⑤ 「人生 100 年時代構想会議」<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/jinsei100nen/>

⑥ 食事と栄養と健康に関する資料

4-3 SDL 1 は自己主導型学修 2 にし、以下を修正した。

(3) 自己主導型学修 1

NHK スペシャル「あなたもなれる “健康長寿” 徹底説明 100 歳の世界」を視聴して自分
が健康長寿を送るためにどのようにするかを考える

課題 1 : 健康長寿を妨げる要因を整理し、要因間の関係を図示したプロブレムマップの作
成

課題 2 : 自分が健康長寿を送るためにどのようにするかを説明する資料を作成

4-4 授業 2 はネット授業 2 にし、以下を修正した。

(4) ネット授業 2

課題 1、課題 2 についての自己主導型学修の成果をグループ内で共有して、健康長寿を阻
害する問題の相互関係をグループとして図示したプロブレムマップを作成

(グループプロダクト 1)

4-5 SDL 2 は自己主導型学修 2 にし以下を修正した。

(5) 自己主導型学修 2

健康長寿社会を実現するために自職種はどのようにすべきかを考える

課題 3 : 健康長寿社会を実現するために、20 年後の自職種の未来像を説明する資料を作成

4-6 授業 3 はネット授業 3 にし、以下を修正した。

(6) ネット授業 3

20 年後の自職種の未来像をグループ内で共有し、保健・医療・福祉を担う職種の未来像を
説明する資料を作成 (グループプロダクト 2)

4-7 SDL 3 は自己主導型学修 3 にし以下を修正した。

(7) 自己主導型学修 3

健康長寿社会を実現するために未来像の中で、保健・医療・福祉の関連職種がどのように
連携すべきかを考える

課題 4 : 健康長寿社会を実現するために、20 年後の保健・医療・福祉を担う職種の未来像
を説明する資料を作成

4-8 授業 4 はネット授業 4 にし、以下を修正した。

(8) ネット授業 4

保健・医療・福祉を担う職種の未来像とその連携について、他のグループと教員に対して説
明会を行う。説明会后、指摘された点やディスカッションを踏まえてグループの最終プロダク
トを作成する (グループプロダクト 3)

4-9 SDL 4 は自己主導型学修 4 にし以下を修正した。

(9) 自己主導型学修 4

課題 5 : 授業 1 ~ 4 をふり返り、e-ポートフォリオを作成する。「20 年後の自職種の未来像」
について各自で最終提出物を作成する。

(5) その他

- ① 実験授業で、参加学生の学修内容の履歴、閲覧、データ化等を行うことについて、大学内で倫理委員会への対応を考慮する必要がある。※ 中山委員に対応のひな形を次回紹介いただく。
- ② 学生の募集は、委員からの紹介であっても原則として、個人の自由意思で参加していただく。
- ③ 自己学修は1日1時間位を想定して考える。
- ④ 参加学生のグループには委員1～2名ファシリテータとして支援する。
- ⑤ ICT環境（グレкса）は6月～12月の間使用できるようにする。
- ⑥ 北海道医療大学の二瓶先生にも参加いただき実験の準備を進める。

2. 次回委員会

平成30年3月22日（木）10：00-12：00とする。